

第6章 整備事業の推進

第1節 今後のスケジュール案

国指定史跡名越切通における整備に向けた事業計画(案)を以下に示す。

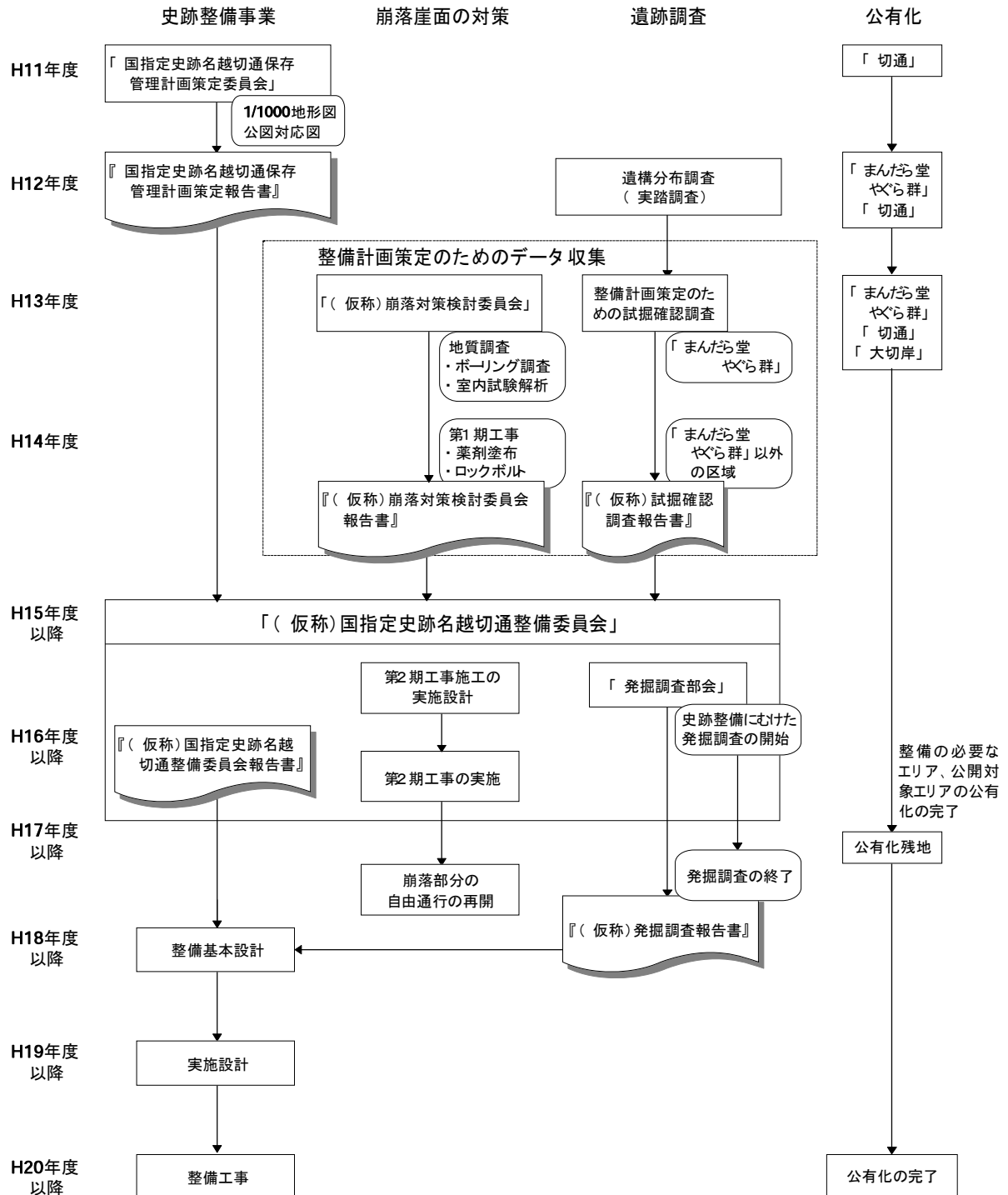


図6-1 整備に向けた事業計画(案)

第2節 今後の課題

最後に、国指定史跡名越切通における今後の整備計画策定に向けて残された課題・問題点を整理する。

1．崩落対策の実施について

切通路においては現在も崖面の崩落が進んでおり、切通の保存管理や公開活用の安全性を考えた場合、早急な対策が必要である。安全対策は本来、整備計画の中で位置づけられ、検討されるべき課題であるが、最も重要な緊急案件として崩落対策を至急検討する必要がある。

→「(仮称)崩落対策検討委員会」及び平成15年度設置予定の「(仮称)国指定史跡名越切通整備委員会」へ引き継ぐ。

2．発掘調査の実施について

指定地内には、切通、まんだら堂やぐら群、大切岸などの性格の異なる遺構が分布しているが、これまで遺構の性格を明らかにするに至る発掘調査は行われていない。整備計画を策定する際には、遺構の分布や年代、性格を把握することが大前提であることから、指定地の公開活用エリア全域を対象とした試掘確認調査を実施し、整備計画策定に着手する。整備工事の実施にあたっては必要な発掘調査を行う。

調査の具体的な実施箇所・規模・手法等については、「(仮称)国指定史跡名越切通整備委員会」の組織の中に遺跡調査に関する部会を設けるなどして、検討する必要がある。

→「(仮称)国指定史跡名越切通整備委員会」へ引き継ぐ。

3．史跡の追加指定について

昭和58年の追加指定の際に、指定にあたる遺構が確認されていながら指定に至らなかった区域があるので、その区域についての追加指定を再検討する必要がある。対象エリアとしては、指定地の中央部で細くなっているところの南西側に位置する「六老僧やぐら」を含むやぐら群地域及び大切岸前面の平場が該当する。

4．公開活用の具体的な方向性について

本報告書でも若干の記述をしているが、史跡の公開活用についての具体的な方向性(遺構の公開方針、遺構の展示方法、施設計画、園路計画、企画・運営計画など)については、発掘調査及び崩落対策の検討結果をもとに十分な検討が必要である。

なお、遺構の適正な維持管理を目的として植生をコントロールするための間伐などを行う場合や、まんだら堂やぐら群などの公開にあたっては、ボランティアの活用など市民参加による手法も検討する必要がある。

→「(仮称)国指定史跡名越切通整備委員会」へ引き継ぐ。

5．鎌倉市との連携について

国指定史跡名越切通は鎌倉市との市境を越えて立地しているが、本来同一である史跡を現在の行政境界で分割して扱うことは望ましくないため、整備に必要な各種調査を鎌倉市と共同で実施した

り、調査成果の情報交換をするなど、協力体制を密にする。整備計画を策定する際には、動線計画や便益施設等の設置にあたり適切な役割分担を行うなど、整備に整合性を持たせる必要がある。

また、史跡名越切通を含んだ「古都鎌倉の寺院・神社ほか」の世界遺産登録に向けた動向を踏まえて整備内容を検討する。